

レンコンイベントに参加して

(文責) 愛媛大学社会共創学部
活動参加学生

※初参加の学生の皆さんよりイベント終えての感想を頂きました。



イベント終了後に記念撮影

山野 仁

レンコン掘りといえば沼のようなところですが、イメージがありました。長靴とスコップで掘れるレンコンがある事を知りました。

どこまで続いているのか全く分からず、とても難しいと



愛大ブース準備中

植生の遷移

(文責) 日山 貞治



電波塔周辺の松枯れ

植生の遷移は、植物群落を構成する種や個体数が時間に伴い変化することで、何もない裸地から森林が形成するまでの過程で、各段階に応じた植物の種類が時間の経過とともに、入れ代わるように生育することです。

原中地区にある、小高い山の山頂付近にある電波塔周辺は、かなりの数のアカマツの枯木が見られます。松枯れは、マツノマダラカミキリに寄生しているマツノザイセンチュウ(線虫)が侵入することで木を弱らせ、松枯れを引き起こすことです。

アカマツは、明るい場所です太陽の光が大好きな陽樹ですが、枯木の下には、陰樹であるクスノキ・カクレミノ・アオガシ・ホルトノキ等の幼木が生育していました。これから百年も経てば、これらの陰樹もやがて照葉樹林として山肌を覆い、安定した山里の森(極相林)になることでしょう。



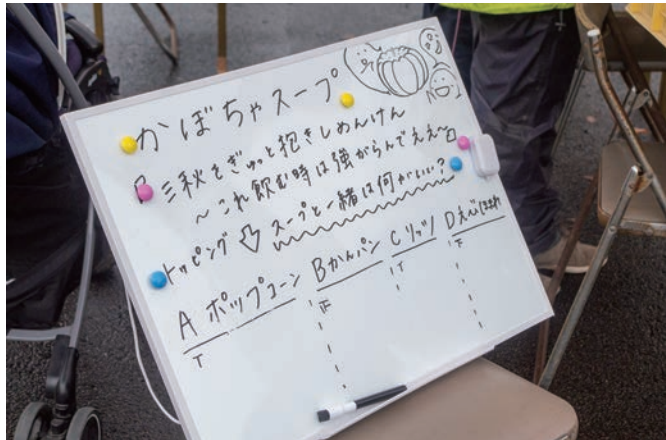
感じましたが、とても楽しかったです!



みんなで雨対策

村上 芽衣

人生で初めてのレンコン掘りはとても新鮮でした。また、三秋地区のみなさんと一緒にイベントを運営しながら、レンコン掘り体験に来られた方とも交流することができ、心温まる貴重な経験をさせていただきました。



イベントで提供したかぼちゃスープのPR

『豫州大洲領御替地古今集』で紹介された三秋の記録

(文責) 日山 貞治

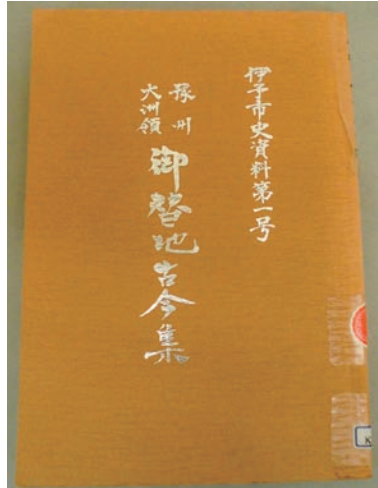
今から、二百年以上前の寛政十二年(一八〇〇)に、伊予郡山崎庄下唐川村の庄屋菊澤与八等により収録された江戸時代後期の地誌『豫州大洲領御替地古今集』に三秋地区の事が紹介されています。

三秋村の紹介(五項目)

①人物名は、庄屋役の市兵衛・越智喜平治・得能六郎左衛門(五代)の三名。②氏神は、稲荷大明神で、村に水之明神社がある。③西願寺があり、開山仏照禪師は文保二年(一一三二)に遷化。七堂伽藍の揃った根本大寺で、大像の薬師十二神が祀られた。長曾我部の乱の時、焼き払い野原となった。④高野川との境に「はた」という集落があり、そこに佐右衛門と云う鉄砲上手の百姓がいた。⑤姥が谷大池。元は小さな池だったが、正保四年(一六四七)に重上げして大池になった。事などが記載されています。

御替地古今集に関係する構造物や石造物などは、次号で紹介する予定です。

参考文献 愛媛県生涯学習センター『データベース愛媛の記憶』



阿南 玲蘭

先輩方の様子を見ていて、地域の方と深く繋がりが、笑顔になるきっかけを生み出すことが大事だと学びました。私もプロジェクトに取り組み際は、地域の活動と幸せになる瞬間を探して活動していきたいと思っています。



お客さんのレンコン掘りサポート

名越 太一

イベントに参加して、レンコン掘りの難しさを痛感しました。地域の子どもたちや、毎年常連のご家族たち、また、育てた人たちがレンコンを掘



地元の皆さんとの交流

仙波(出淵)盛政五輪塔

(文責) 日山 貞治

西願寺の北側に仙波家墓所があり、仙波盛政の墓塔と伝わる五輪塔があります。(現在は西願寺本堂裏手に移設)五輪塔は、凝灰岩製で一m四十五cmを超えるものですが、完形でなく一部他の部材を取り入れたものです。

五輪塔の後にある石碑には、西願寺殿前筑前大守岩種清根大禅定門/天正十七(一五八九)龍次亡丑歳三月二十一日/盛景寺殿仙波出雲守盛景之嫡子出淵筑前守盛政也とあります。



仙波盛政五輪塔



っている姿を見ている際や、集会所での光景に地域のつながりを感じました。

恵木 雅之

レンコンを掘ったこともなく、地域の方と関わることで、地域の方に楽しい時間を過ごすことができ、三秋の魅力を感じることができました。



→初参加の愛大生皆さん

放置竹林の竹利活用モルック体験会

(文責) 原田 浩明



竹で作ったモルック

去る十月二十二日、北山崎小学校にて、モルックづくり体験が行われた。このイベントは、愛媛大学の学生たちが、三秋地区でのフィールドワ



手作りしたモルックを使って競技体験



のこぎり等を使ってモルックづくり

クにおいて、放置竹林の竹を利用して何かスポーツは出来ないかという着想から生まれた企画である。当新聞も、竹の切り出し運搬をサポート、中村地区公民館とも連携し、竹からオリジナルモルックを作製し、実際にモルック競技を体験。親子で楽しめる軽スポーツを体験してもらうと同時に、放置竹林問題についても

人権を考える集い

(文責) 原田 浩明



小学校での取り組みについて紹介する先生

去る十一月二十八日、三秋集会所にて、人権・同和教育地区別学習会が開催された。最初に、小・中学校の先生方より、学校での人権教育に関する取り組みについて紹介。その後、啓発ビデオを視聴し、社会教育指導員の先生より、ビデオの解説・講話があった。ビデオの中では、同和教育をはじめとする様々な人権問題(障がい者、外国人、性的指向等)がテーマとして描かれており、これらの問題にどう向き合うべきかをあらためて考えさせらる内容であった。



社会教育指導員の先生による解説

みあき写真館

(写真) 日山 貞治



【タイトル】「稲木干し(稲架掛け)」

稲木(いなぎ・いなぎ)は、バインダーなどで刈り取った稲などを束にして、天日に干せるように、木材や竹などで柱を立て横木を掛けたものです。



干すことによって、糖や甘味などの栄養分が米粒に蓄えられると言われています。古い時代からこの方法はありましたが、近年ではコンバインや乾燥機の導入により、手間のかかる稲木干しはめっきり少なくなりました。



【タイトル】「鮮やかな赤ヒガンバナ」

ヒガンバナは、中国大陸から古い時代に渡来した多年草で、秋のお彼岸頃から10月上旬にかけて、田んぼの畦などを真っ赤に彩り、三秋の秋の1ページを演出してくれました。

最近では、園芸品種も多く、白や黄色の花を見ることがあります。葉は、花が終わってから伸び始め、翌年の初夏に枯れるという、多年草としては珍しい性質をもっています。

ヒガンバナは、曼珠沙華(まんじゅしゃげ)やリコリスとも呼ばれ、多くの別名や方言名などがあります。鱗茎(りんけい)には、強い毒性があるので、注意しましょう。

